



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題  
アジア会長主題  
東日本区理事主題  
あずさ部部長主題  
東京西クラブ会長主題

“Let Us Walk in the Light-Together” 「ともに、光の中を歩もう」  
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」  
「広げよう ワイズの仲間」  
「継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう」  
「休まず たのしく 元気よく」

2018年6月号  
NO 502

神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。 コリントの信徒への手紙Ⅱ 7章10節

### 2017-2018 年度を振り返って 本川悦子

### 緑と水とソバの深大寺

#### WHOウォーキングのご案内

2017-2018 年度がもうすぐ終わろうとしています。

会員歴だけは長く臺(とう)が立った新人会長は、小さな船に不安と心配を積んで、フラフラとしながらワイズの海へと出航しました。

ところがこの船には優秀なクルーばかりが乗っていましたので、沈没の心配なく1年間を乗り切ることができました。

今年度はあずさ部長を東京西クラブから輩出し、大野貞次さんが引き受けましたので、クラブ全員で部長を応援しました。部長のクラブ訪問には、できるだけ一緒についていきました。これまで、なかなか他のクラブに行くことはありませんでしたので、クラブ訪問は他のクラブを知り、親睦を深めるとても良い機会でした。

また7月に、日本YMCA 同盟総主事の神崎清一さんが入会してくださりました。10月にはあ

ずさ部会を開催しました。当日は雨にも関わらず、80余人の参加がありました。

11月はIBCを締結している台北セントラルクラブの林博司・恵美さんが来日されていまして、クラブの有志と食事をしました。より親交を深めることができました。来年仙台で開催されるアジア太平洋地域大会での再会を約束して別れました。

年が明けてからは、今まで使っていた例会場「あんさんぶる荻窪」が3月から使えなくなるため会場探しをしました。幸い杉並区が新しく建てた「ウエルファーム杉並」を使えることになり、これまで通り杉並で例会を開くことができました。会長主題通りに「休まず 楽しく 元気よく」運営できたかなと思います。新米会長を支えてくださったクラブの皆様感謝いたします。



水が豊かな調布深大寺の寺宝・釈迦如来像は、白鳳時代の作品。東日本では最古の国宝です。今回は、ガイドをお願いし、深大寺の魅力に迫り、緑豊かな神代植物園の雑木林を散策します。

期 日：6月23日(土)

集 合：京王線・調布駅中央改札を出て地上交番前9:45

解 散：神代植物園正門バス停

参加費：300円(交通費・施設入場料はなし)初参加の方は+200円 昼食は名物ソバを。

(写真：都内では屈指の古刹深大寺本堂)

#### クラブ役員

会 長 本川 悦子  
副 会 長 石井 元子  
書 記 篠原 文恵  
会 計 村野 絢子  
担当主事 宮崎 純

5月の記録		ニコニコ	6,370円
在籍者数	16人	メネット	0人
(内功労会員)	1人	クラブファンド	0円
出席者数	10人	ファンド残高	151,464円
メーカー	2人	ホテル校ファンド	30,000円
出席率	75%	ホテル校残高	117,372円
前月修正	-	WHO参加者	33人

## 6月例会・年次総会のご案内

## 今月の強調テーマ： 評価

この一年、楽しい例会を持つことができたでしょうか。またワイズメンズクラブのメンバーとして相応の活動ができたでしょうか。

一年を振り返り、新しい年度に夢を描く時を持ちたいと思います。

クラブ定期総会、役員交代式、クラブが大切にしている活動のひとつ、ホテル学校私費留学生に奨学金の贈呈式があります。

日時：6月21日(木) 18:45~21:00

会場：「ウエルファーム杉並」4F 集会室

(杉並区天沼3-19-16 TEL/03-5335-7330)

JR・丸の内線荻窪駅北口から徒歩8分

会費：1,500円(ゲスト・ビジター・メネット)

担当：C班(山田、大野、小山、篠原、村野)

## HAPPY BIRTHDAY

当クラブには該当者なし

開会点鐘

ワイズソング

聖書朗読・感謝

挨拶・ゲスト&ビジター紹介

ホテル学校私費留学生奨学金贈呈式 会長

留学生紹介 ホテル学校校長・小畑貴裕さん

スピーチ ブン・ティン・ガーさん

受付 村野 絢子

司会 大野 貞次

会長 本川 悦子

一 同

山田利三郎

会 長

会 長

## 会食

クラブ定期総会

議長 本川会長

役員交代式

司式 吉田明弘

ハッピーバースデー

会 長

諸報告

会 長 他

YMCA 報告

担当主事・宮崎 純

ニコニコ献金

一 同

閉会点鐘

会 長

## - 5月第2例会(事務会) -

日時：5月24日(木)

19:00~21:00

場所：ウエルファーム杉並 4F

出席者：石井、大野、神谷、篠原、高嶋、鳥越、村野、本川、吉田

<報告事項>

①5月のデータを確認した。

②5月次会計報告を承認した。

③5月23日(水)、東京YMCA芸術祭の午前の受付を本川さん、篠原が担当した。

④国際ホテル学校の私費留学生に対する奨学金贈呈者の推薦が学校側からあった。

⑤BF代表として来日し6月2日・3日の東日本区大会(沼津)に参加したカナダから来訪の国際BF代表Todd Robinsonさん、メネットKarenさんの歓迎会が、4日、甲府・岡島ロイヤル会館で行われ、当クラブから大野、神谷さんが出席した。

<協議事項>

①6月第2例会

日時：6月28日(木)

19:00~21:00

場所：ウエルファーム杉並

②7月例会

日時：7月19日(木)

18:45~21:00

場所：ウエルファーム杉並

卓話：候補者に折衝中

③7月第2例会(事務会)

日時：7月26日(木)

19:00~21:00

場所：ウエルファーム杉並

④国際ホテル学校学生との交流のあり方や、奨学金の集め方について話し合いをした。来年度の奨学金について、対象を全学生に広げ何らかの募集が夢実現に沿った援助方法があるかなど、検討していくことになった。

⑤クラブ定期総会の年間活動報告書は、会長と書記、会計報告は中間報告を会計が作成する。

⑥6月9~10日、神戸で開催された西日本区大会に大野・神谷・神谷M・高嶋さんが参加した。

(書記・篠原文恵)

## 留学生紹介

ブイ・ティン・ガーさん (女性)

ベトナム・ハノイからの留学生。東京YMCAにほんご学院卒業後、ホテル専門学校に入学。1年次は修善寺のホテルで実習、その後ホテルシャングリラ東京で実習。同ホテルに就職が内定している。

ベトナムは漢字圏でないので、努力して日本語能力検定2級を取得している。

## 7月あずさ部評議会

2018-2019年度のあずさ部第1回評議会が7月14日(土)、東京・代々木・オリンピック記念青少年総合センターで開かれます。

この評議会は、大野貞次さん(東京西)が部長を務めた2017-2018年度の活動を総括し、2018-2019年の広瀬健部長(甲府21)の下での活動を話し合うものです。

同センターは、来年の東日本区大会の会場に予定されています。

太鼓に合わせて皆で踊る。  
左は八幡舞を舞う近藤淳さんと  
卓話者の近藤洋子さん



### － 5 月例会報告－

新しい会場になって 2 回目の例会です。何となくウキウキしたのではないのでしょうか。さて今月の卓話は、“いのちの扉を拓く「おどり」”と題しての卓話者近藤洋子さんのお話でした。鳥越成代さんの紹介で大学時代の同級生とのことでした。

「おどり」の歴史、各地においてその地の神様への畏敬の念と神様から与えられる恩恵に対する感謝の意の表現に源を発していること等、また「おどり」は身体に与えるよい効果がある等我々にとって実務的にも有益なお話でした。

しかし圧巻は息子さんの淳さんの「舞」でした。洋子さんの鳴らす太鼓に乗って勇壮に舞うお神楽は、伴奏としての太鼓だけで笛やその他打楽器はありませんでしたが、また衣装も着けていませんでしたけれども、皆は心に響く何かを感じ取ったのではないのでしょうか。

ちなみに舞われたお神楽の題名は、「八幡舞」「鳥舞(女性のしぐさで踊られたもの)」とのことです。更に特記すべきことは「舞」の実技でした。全員参加の 2 曲、全員が両手を背中に回して昆虫のバッタの恰好をして太鼓に合わせて群舞する光景はおかしくも楽しい一時で、例会が大変盛り上がりを見せました。

出席者:<メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、高嶋、鳥越、本川、村野、山田、吉田、<ゲスト>近藤洋子、近藤淳、<ビジター>

飯野毅与志(東京山手)、菰渚光彦(東京サンライズ)、藤江喜美子(東京たんぼぼ)

(神谷幸男)

### 漱石と歩く早稲田・神楽坂 － 5 月 WHO 報告－

5 月の WHO ウォーキングは、26 日。これまでとは趣を変えて、夏目漱石をテーマに彼が生まれ、晩年を過ごし、作品にも登場する新宿の地を巡りました。

JR 高田馬場駅からバスで早稲田に移動、付近には忠臣蔵・堀部安兵衛のゆかりの地がいくつもあります。水稲荷から徳川三卿の清水家の下屋敷跡の庭園、甘泉園へ。帝大生の漱石が英語を教えた東京専門学校(現早稲田大学)、付近を正岡子規とよく散歩したそうです。

早稲田通りに出て、漱石の妻、鏡が夫の癩癩の蟲を抑えるために祈願した穴神社、東西線・西早稲田駅に近い誓閑寺へ。ここは『硝子戸の中』に西関寺と書かれています。夏目坂を下ると酒屋 KOKURAYA は安兵衛が枡酒を飲んだ店。隣が漱石の生家。父は江戸時代には町方名主。喜久井町は夏目家の定紋が由来とのこと。

裏道をしばらく歩くと昨年完成した漱石山房記念館。漱石が作家活動に専念するために本郷から移り生涯を終えた山房跡です。書斎を含む建物の一部が復元され、豊富な資料から業績と思想を知ることが出来ます。死ぬまで多くの弟子や友人に囲まれ慕われていた様子が浮かびます。だから

漱石に関する新たな資料が、今だに発見されるのでしょうか。

矢来町公園で昼食。矢来能楽堂を通り過ぎます。このあたりに妻・鏡の実家があったそうです。当時の番地は分っても、広すぎて特定できないとのこと。

漱石が足しげく通った寄席のあった地獄坂から神楽坂の有名な善国寺へ。見合い後、漱石と鏡が偶然出会ったのに、お互い知らんふりをした話があります。相馬文具店で、漱石が特注した原稿用紙を見、通った花街の路地を抜けて東京理科大学へ。かつての物理学校、『坊ちゃん』の主人公が卒業した設定になっています。資料館の藁算からそろばん、計算機、コンピュータの展示は、わが身の来し方と合わせて興味深く見ました。今度は、「漱石と歩いた本郷」のコースも出来そうです。

今回は 11 月に検討している高尾山行のアンケートを行いました。参加者は、33 人。ワイズ関係は、石井・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)、関(石巻広域)でした。(吉田明弘)



堀部安兵衛が枡酒を飲んだ早稲田の小倉屋酒店。隣は漱石の実家跡

## 写真で振り返る1年間の活動



7月例会：バッジ交換をする新旧役員。本川悦子会長誕生



7月：長野県原村での合同例会（松本クラブ）



納涼例会はあずさ部会の会場下見も兼ねて



あずさ部会で講演をした91歳の竹内隆さん。  
ブリテンでも毎月健筆をふるった



10月21日・神楽坂の会場で当クラブがホストした第21回あずさ部会



WHO 10月：川崎市の東高根森林公園



WHO 2月：広重の「永代橋佃島」名所江戸百景の解説

## ☆☆ インタビュー ☆☆ 伊佐 節子さんに聴く

\* \* \*

伊佐節子さんは、7月から宮内友弥区理事のホームクラブとなる東京武蔵野多摩クラブの肝っ玉かあさんです。



—伊佐さんは、ワイズ歴が長いですね。

「1983年に入会しました。79年2月に夫の伊佐喬三が48歳で亡くなった後、当時東京クラブの上妻英夫さん(現東京山手)から、多摩地域に新クラブを設立する意向のご案内をいただきました。伊佐が情熱を燃やしたYMCA活動に少しでも役立てるならと、しぶしぶながら参加し、設立に必要な人数ということで1983年3月の東京多摩クラブの国際認証状伝達式にはチャーターメンバーとして出席しました。当時、私は専業主婦で、YMCAにもボーイスカウトにも直接関係していませんでした。

—ご主人の方には、ワイズやYMCAに参加する、動機のようなものがあつたのですか。

「夫は、新聞記者でした。仕事のかたわら立川市でボーイスカウト立川2団を立ち上げ、活動を展開。国内、海外でのジャンボリーにも参加し、青少年の野外活動に熱心でした。東京YMCA立川センターの誘致には、発起人として設立に積極的でした。生きていたら、間違いなく東京多摩クラブのチャーターメンバーになっていたでしょう」

—ワイズや、YMCAには抵抗はあ

りませんでしたか。

「長男がボーイスカウトに入団、次女がYMCA英語教室、スキーキャンプ、野外キャンプに参加し、お世話になっていました。次女素子が小学校2年生の時、心臓手術を受け、ボーイスカウトのリーダー、YMCAのリーダーの皆さんから献血を受け、感謝しています。その後、YMCAで勤めることが出来、今も元気です」

—伊佐さんご自身は、その後、学校に務められました。

「東京都中学校の養護教諭として29年間勤務しました。当時も中学校には、いろいろな問題があり、突っ張りの諸君に鍛えられました」

—現在は。

「非常勤で保育所の保健師として勤務しています」

—ご出身は東京ですか。

「満州で生まれ、終戦でハルビン郊外の収容所へ。昭和21年11月長崎の佐世保へ帰着。父の故郷、島根県浜田市で小学3年生から高校3年まで過ごし、東京で保健師、看護師、養護教諭の資格を習得しました」

—子どもの頃から、学校の先生になりたいと思っていましたか。

「いいえ、子どもの時の夢は、スチュワーデス」

—1996年の立川センターの閉鎖に伴い、クラブも国立市の医療福祉専門学校へ移りましたね。

「同じ年に武蔵野センターも閉鎖となり、東京武蔵野クラブも医療福祉専門学校にきました。どちらもメンバー数が減少し、10人くらいになったのでしょうか。武蔵野クラブは会員宅で、多摩クラブは医療福祉専門学校で例会を行いました。武蔵野クラブが毎年8月に行っていた長野県原村例会に合流したのが、合併の機運になったと思います。

—合併には時間をかけましたね。

「2001年頃から合同例会を行い、合併したのは2006年でした。

クラブ名は、武蔵野を前にして東京武蔵野多摩クラブ、クラブの歴史は、東京多摩を引き継ぎました」

—東京武蔵野多摩クラブは、数年前から、急に元気になりましたね。モンゴルにIBCをつくり、宮内友弥さんが区理事候補を引き受け、会員が増えてきました。何がきっかけだったのでしょうか。

「YMCAの山田公平主事の人脈によって、国内だけでなく、海外、主に香港、アジアの繋がりでも国際交流が増えたことも一つの要因でしょう。YMCA・OBの山口直樹さんがかつてのYMCAリーダーを掘り起こして会員増に繋がりました。例会の後の飲み会が活発になり、誰もが積極的に発言するようになりました。ワイズの在り方、クラブの在り方について、気楽に話し合える二次会の効果が大きいと思います。でも飲み会もほどほどにしないと健康面、金銭面で問題があり、年金生活者の首を絞めることにもなり要注意！ですね」

—クラブに浮き沈みはつきものです。この間、伊佐さんが、いささかもブレなかったのには驚いています。宮内さんに急に区理事の話が来て、彼が逡巡していた時、『うじゃうじゃ言わないで受けなさい』と言われたそうですね。伊佐さん御自身の、ブレないバックボーンは、なんなんですか。

「試練の度にへこむことが多く、弱い者ですが、祈りに支えられてきました。『すべてのわざには時がある』『すべてのこと、相働きて益となる』『主の山に備えあり』は、いつも励まされる聖句です」

—7月から区理事ホームクラブですね。期待していますよ。

「ありがとうございます。皆で頑張ります。よろしくお願ひします」

—ありがとうございます。

(吉田明弘)

## 年度最後のあずさ部評議会

2017-2018 年度最後の富士の国評議会が、5月12日(土)、まだ頭に雪の冠を抱いた富士山に見守られながら、ホストクラブ富士五湖クラブのホストで、富士吉田市の料亭、魚吉会館で行われました。

昼の会場はとても気持ちちが

よかったです。大野部長の開会点鐘、ワイズソング、ワイズの信条を斉唱してホストクラブ原淑子会長の歓迎の挨拶の後、44人の出席者を確認して評議会が始まりました。

大野部長の挨拶の後、2件の議案承認、部長中間報告、各事業主査の中間報告、各クラブ会長の中

間報告と進み、金井宏泰監事(松本)の講評で閉会式となりました。YMCAの歌、『あずさの道』を合唱して、大野部長が今年度最後の閉会点鐘をして、次期部長廣瀬健さん(甲府21)にバトンタッチをしました。

(本川悦子)

## 富士五湖クラブ設立15周年記念例会

富士五湖クラブの設立15周年記念例会は、評議会終了後、同じ会場で13:00から行われました。

第1部は記念例会。開会セレモニーに続いて、2月3日に締結した京都洛中クラブとのDBC締結報告、大野貞次あずさ部長と露木淳司山梨YMCA総主事の来賓あいさつ、記念撮影をもって終了。

第2部は祝会。富士五湖クラブ15年の歩みを記録したビデオに

元気のよい富士五湖クラブを回想し、続いてスポンサークラブ甲府クラブ会長の祝辞、この中で、クラブ設立に尽力され、現在体調を崩されている平原貞美会員からの熱いメッセージが披露されました。

続いて地元色豊かな料理による会食。

お楽しみタイムは絵柄が施された装飾小石が1人ずつ配られ、その絵柄によった抽選会。豪華な賞品を手にした満面笑みの当選

者多数。大いに盛り上がりました。

山梨YMCA新館建設基金のための献金を捧げ、最後に富士五湖クラブがホストした東日本区大会のPRに行った疑似松明を振っての「燃えろよ ワイズ」を斉唱して16:15頃お開きとなりました。出席者は約80人、クラブの出席者は石井、大野、神谷、篠原、高嶋、鳥越、本川、吉田の8人でした。

(神谷幸男)

## シゲとあーやの子育て① 村野絢子

いつだったか友人が「うちの子は大事にしているのに病気ばかりするの、あなたのうちは放りっぱなしなのに病気しないわね」と言われたことを思い出す。

義母の亡くなった後、敷地内に家を建てるまで、シゲの父、弟達、妹と私どもの家族、多い時は8人家族になっていた。

家では離乳食にベビーフードは買わなかった。家族と同じ食事を柔らかくし、シゲは指で口に入

れ、あーやは小さいスプーンで与えた。小鳥がひなに口移しでえさを与える姿に似ていた。

50年前の西永福は、酒屋、八百屋、魚屋、肉屋、豆腐屋、和菓子屋が御用聞きに来る、のんびりした地域であった。今は駅前の酒屋さんのみ残り、シゲ用のビール大瓶20本入りのケースが常に裏口に置かれている。

散髪も小学生の間はどの子もマッシュルームカットにあーやが切った。ゾーリングンのよく切れる床屋ばさみと、くしを使った。シゲは自分でスイス製のサボ

で漉いて減らし、あーやがはさみで周りを切り揃える。今も洗面所から「おーい頼む」の声に「はい」と櫛とゾーリングンのはさみで整える。あーやの髪はシゲが切っていたが30年前仕事を始めた時、「君は美容院で切ってもらえよ」とおしまいになった。

小学校の母親たちの会話中男性の名前の美容室の話で、「私はシゲに切ってもらおうの」「どこにあるの?」「私の専用」と言って笑ったことを思い出す。家で当たり前の暮らし方が一般的ではなかったようだ。

## 沼津での小さな思い出

今回の東日本区大会が開催された沼津市に10歳の時、約4か月近く過ごしたと言うか、隔離されたと言うか、それは小学校の5年の春ツベルクリンの陽性反応が出て養生所に入れられたのでした。この養成所の生活はよく覚えていませんが、海岸の近くで木造の校舎のようなところと記憶

しています。そこから海岸(砂浜ではなく、大小の石がごろごろとあった)海岸へ行き、遊んだ記憶があります。

今回そんな思い出がよみがえり、懐かしくもあり、また勉強が遅れた苦い思い出でもありました。それが体を強くするきっかけにもなり現在があるのだと思います。感謝。(大野貞次)

## 編集後記

今回も準備不足や手違いなどで遅れましたが、皆様の協力によって6月号完成いたしました、感謝申し上げます。

それと皆様のお支えにより部長として無事務めることができましたことを感謝いたします。

(T・O)